

令和5年度

登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

九州ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

問題 1 登録基幹技能者に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 登録基幹技能者は、熟達した作業能力がある。
2. 登録基幹技能者は、豊富な知識を有している。
3. 登録基幹技能者は、現場を効率的にまとめることができる。
4. 登録基幹技能者は、闘争能力を備えている。

問題 2 建設キャリアアップシステムに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 個々の技能者の能力を評価することが可能である。
2. 職種ごとに能力評価基準が策定された。
3. 技能者に対して5段階の客観的な技能レベルが付与された。
4. 登録基幹技能者は、能力評価基準の最高位（レベル4）要件の資格者である。

問題 3 登録基幹技能者の活用に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 一般社団法人日本建設業連合会の提言の一つとして「建設技能労働者の賃金改善」を掲げ、その中で「優良技能者認定制度」の普及を推進することとしている。
2. 一般社団法人日本建設業連合会会員企業は「優良技能者認定制度」を導入し、その認定にあたっては「登録基幹技能者」であることを求める企業が増加してきている。
3. 登録基幹技能者として、優良技能者認定制度の認定を受けることにより、年収が数千万円増加することなども見込まれる。
4. 技能労働者の位置付けを総合評価落札方式の評価対象とすることにより、登録基幹技能者を積極的に育成している企業が元請企業から活用される機会が増え、優良な専門工事業者の確保、優良な技能者の処遇改善につながり、若年者の入職促進につながる。

問題 4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 物事のひずみ度、応力度が判断できる。
2. 調査・分析結果から、対象物の全体像と要点を掌握することができる。
3. 対象物にまつわる諸条件を的確に捉え、客観的な観点から、結論を導き出すことができる。
4. 的確な分析力と判断力を有し、客観的な観点から最良の結論を導き出すことができる。

問題 5 登録基幹技能者に必要な資質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 約束を守る。
2. 統率力がある。
3. 決断力を持って行動する。
4. 理屈を述べてから実行する。

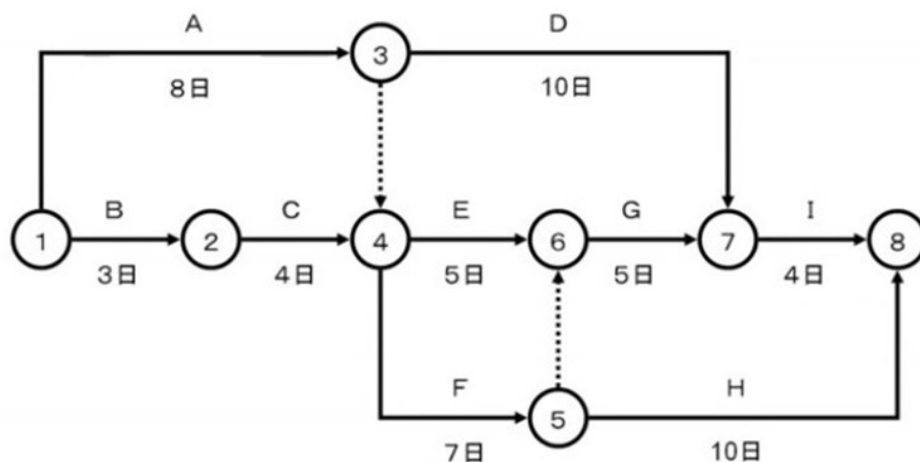
問題 6 登録基幹技能者としての法令の遵守に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. 建設工事の発注者は、その注文した工事を施工するために通常必要と認められる期間に比べて著しく短い期間を工期としてはならない。
2. 元請負人は、下請代金のうち労務費に相当する部分については、現金で支払うよう適切な配慮をしなければならない。
3. 監理技術者を専任で置かなければならない建設工事について、一定の要件を満たす者を監理技術者の補佐として専任で置く場合には、監理技術者の専任を要しないこととなった。
4. 特定の専門工事について、一定の要件を満たす場合においても、元請負人が現場に専任で置く主任技術者および下請負人が置くべき主任技術者の両方を置かなければならない。

問題 7 登録基幹技能者が担うべき指導・教育、自己啓発に関して、**最も不適当**なものはどれか。

1. OJT の目標の設定は、日常の仕事を通じて行う指導・教育が可能な目標・項目であること。
2. OJT の目標の設定は、部下が意欲を持って取り組めるものであること。
3. OJT の目標の設定は、定量的で具体的であること。
4. OJT の目標の設定は、指導・教育期間を自由に行うこと。

問題 8 次の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表のクリティカルパスは、A-F-Hである。
2. この工程表の工期は、25 日である。
3. G 作業のトータルフロート（余裕日数）は、2 である。
4. G 作業の最遅終了時刻(LFT)は、21 日である。

問題 9 新しい技術に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BIM は単なるソフトウェア技術の範囲を超えて、建築プロジェクト全体の生産性向上のための運動全体を指す用語として用いられるようになってきている。
2. BIM とは、建設時や施設の資産管理におけるデジタル形式であり、発注者とプロジェクト関係者にとっての成果を向上させるために新技術群とデジタル化された情報、プロジェクトのプロセスの改善と資産管理を同時にもたらすものである。
3. BIM は、製造業における機械製作や機械設計を行う際に必要であり、意思決定を改善する戦略上重要な役割を果たす。
4. BIM は、新築プロジェクトに適用されるだけでなく、維持管理工事、改修工事や施設運営など施設の環境を維持するための活動全般に適用される。

問題 1 0 施工管理の概要に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工計画は、工事施工にあたり、請負契約書及び設計図書や現場条件などを検討し、どのように目的物を完成させるかについて計画するものである。
2. 安全管理は、第三者や作業員の安全を確保するために行う管理である。
3. 品質管理は、設計図書を元に施工計画・施工図等を作成し、建築物の品質を管理するものであり、仕様書や発注者の要求については考慮する必要はない。
4. 原価管理は、請負契約と施工計画から材料費、労務費、現場経費などの工事に関わる原価を算出し、実行予算通りに実施できるようにするものである。

問題 1 1 施工手順書の活用に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 作成した作業手順書は、関係作業員に周知徹底し、実践させることが重要である。
2. 作業開始前に「指導及び教育の8原則」と作業手順の重要性について、関係する作業員を十分に教育訓練する。
3. 作業上、手戻りや不具合が生じた場合には、その作業手順書を見直し、その原因となった部分を改善する。
4. 作業手順書は、一度作成すればその現場が終わるまで活用する。

問題 1 2 見積原価の管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 土質、周囲の環境、近隣協定、駐車場の有無等、自社の施工に影響する現場条件を注意深く確認する。
2. 設計図書で、不明確な点や図面間の相違点などがあれば、あらかじめ質疑する。
3. 積算業務における数量は、設計図書から拾い出す場合と、元請から数量を渡される場合があり、その数量に実勢単価を乗じて原価を算出する。
4. 材料は支給か、取り合い部分の施工はどの業者が施工するか、どんな書類の提出があるかなど、施工範囲は重要な確認事項であり、原価には直結しない。

問題 1 3 専門工事業者の予算実績管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 原価管理では、まずは元請対応が重要であり契約した工事がスムーズに行くように先を見通して元請と打合せする。
2. 他の外注業者との調整も必要になり、これらの調整がうまくいかず、作業が滞ったり手戻りとなったりすれば、余計な人工がかかって原価を圧迫してしまうことになる。
3. 元請と随時の打合せを怠ることは注意しなければならないが、追加については最終的にまとめて打合せするとよい。
4. 毎日の作業日報で契約内と契約外工事を明確にしておくとともに、毎週あるいは毎月とりまとめて元請に提出することが必要である。

問題 1 4 設計品質と施工品質に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 品質には設計段階で定める設計品質（ねらいの品質）と、施工段階で実現する施工品質（出来ばえの品質）がある。
2. 発注者を始めとして、建設コンサルタント、設計・監理者、総合工事業者、専門工事業者、材料供給業者間で品質の考え方の共有が必要である。
3. 設計品質の内容と決め方には、「仕様規定」と「性能規定」がある。
4. 「仕様規定」は、求める品質がより具体的に表現され、その成否の判断も明快であり、施工に関わる技術革新や経済・社会の変化への柔軟な対応が容易である。

問題 1 5 総合的品質管理の必要性に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 品質の確保・向上には、発注者をはじめ、建設コンサルタント、設計・監理者や総合工事業者、専門工事業者、材料供給業者等の間で品質の考え方について共有することが必要となる。
2. 企業全体の参加、協力、統制による品質管理活動を総合的品質管理（TQC）と呼ぶ。
3. 日本の高品質の源は、トップダウンであり、総合工事業者や専門工事業者による地道な品質管理活動はあまり効果を奏していない。
4. 近年はトップマネジャーのリーダーシップにより組織が一丸となって顧客満足度の向上を目指す TQM が普及している。

問題 1 6 建設業法に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設工事の請負契約の当事者は、各々対等な立場における合意に基づいて公正な契約を締結し、発注者から請け負った工事金額によって契約することもある。
2. 建設工事の契約の締結に際して工事内容や請負代金の額などを書面に記載し、署名または記名押印して相互に交付しなければならない。
3. 注文者は自己の取引上の地位を利用して、その注文した建設工事を施工するために通常必要と認められる原価に満たない金額を請負代金の額とする請負契約を締結してはならない。
4. 注文者は、その注文した建設工事を施工するために通常必要と認められる期間に比して著しく短い期間を工期とする請負契約としてはならない。

問題 1 7 墜落制止用器具に関して、最も不適当なものはどれか。

1. これまで建設業等の高所作業において使用される胴ベルト型安全帯も墜落時の危険性はない。
2. 国際規格等では着用者の身体を肩、腰部、腿等の複数個所を保持するフルハーネス型安全帯が採用されている。
3. 墜落制止用器具はフルハーネス型安全帯を使用することが原則となり、2022年1月2日からは完全施行となっている。
4. 高さ2m以上の箇所であって作業床を設けることが困難なところにおいては、墜落制止用器具のうちフルハーネス型安全帯を用いて行う作業では、「安全衛生特別教育」を受けなければならない。

問題 1 8 ラス系下地の二層下地通気構法について最も不適当なものはどれか。

1. ラス系下地の二層下地通気構法とは、構造躯体にラス下地板、面材、防水紙を張り、その上から通気層を設けずにラスおよびセメントモルタル等を直接施工する場合の下地のことである。
2. 防水紙に使用するアスファルトフェルトは430又は同等の性能を有するものとし、継目を縦、横とも90mm以上重ね合わせる。
3. 平ラスは木造外装用として不適格であるが、ひび割れ防止の補強材としては部分的に使用する。
4. 波型ラスを留め付けるステーブルは、足の長さ19mmの1019J程度のものを使用する。

問題 19 セメントモルタルの施工においてひび割れの防止対策として**不適當**なものはどれか。

1. セメントモルタルの配合において水セメント比が小さい方が、収縮ひび割れは起こりにくい。
2. セメントモルタルの骨材の砂は、砂の粒度を細かいモノでそろえる事でムラの少ない平滑な表面が形成でき、表面乾燥ひび割れを起こしにくい。
3. セメントモルタルにおいて水量が多くなればコテの滑りや材料の伸びなどの作業性が良くなる反面、セメントモルタルの悪い性質が出やすくなる。
4. 下地の不備などを完全に修正してから次の工程に移ることが大切である。

問題 20 書籍・仕様書に関するものとして**不適當**なものはどれか。

1. 公共建築工事標準仕様書の内容は、一般事項や仮設等の共通工事、施工方法、検査・試験方法など、共通的な事項および工法等について標準的な仕様を取りまとめている。
2. 書籍「建築工事標準仕様書・同解説」は日本建築学会が発行しており、通称「JASS」（ジャス）ともいう。適切な施工標準を作ることを目的として工事の種類ごとに体系づけられ、JASS1 から JASS27 まであり、左官工事は JASS15 となっている。
3. 書籍「左官施工法 2020」は（一社）日本左官業組合連合会が発行しており、JASS15 に整合した平易な内容の副読本として、時代に即応しながらも普遍的な基礎技能と知識を習得することに重点を置いている。
4. 設計図書間に相違や矛盾がある場合の優先順位は、①現場説明書、②特記仕様書、③質問回答書、④設計図、⑤標準仕様書である。

問題 21 既調合しっくい（しっくい）の施工に関するものとして**不適當**なものはどれか。

1. 既調合しっくいは、粉末状の調合したしっく이가主流だが、保水材、化学繊維などを混合したものや、ペースト状のものなどさまざまな製品がある。
2. 日本漆喰協会による「既調合しっくい」の定義の一つに、主原料である消石灰は、ドライベース換算での全重量の、上塗り用は 70wt%以上、中塗り用は 50wt%以上含有しなければならないとされている。
3. 上塗りの仕上げ工法は、押え仕上げの他に、なで切り仕上げ、パターン仕上げ、色しっくい仕上げなどがある。
4. せっこうボード下地で上塗りのしっくいを直塗りする工法や、下塗り材の代わりに吸水調整材だけを塗布する工法は、一般に行われていない。

問題 2 2 左官工事の施工品質に関する記述について、最も不適当なものはどれか。

1. 吸水調整材には、主として合成樹脂エマルジョンが用いられ、エチレン酢酸ビニル系およびアクリル系の2種類が代表的である。
2. 下地調整塗材の CM-1・CM-2 を使用したポリマーセメントモルタルの施工時および養生時の気温が 0℃以下になることが予想される場合は、作業中止をするか採暖等の適切な養生を行う。
3. コンクリート表面は、はく離防止のための目荒らし、清掃を行い、脆弱層は除去する必要がある。
4. 近年の外壁タイルボンド張り工法（変性シリコン・エポキシ系）の下地施工において、タイルボンドとエチレン酢酸ビニル系とは接着の相性が悪いので施工計画には注意を要する。

問題 2 3 セメントモルタル塗り工法の記述について、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタルは加水と同時に水和反応が始まり、温度によっても凝結時間が変化するので、可使時間は冬期 120 分夏期 60 分を目安とする。
2. セメントモルタルの調合は、下地側に塗られるものほど強度を高くする。
3. セメントモルタルの総塗り厚が 45mmを超える場合は、溶接金網、アンカーピン等による剥落防止措置を行う。
4. セメントモルタル塗付け後の急激な乾燥により、強度が低く接着力も不十分な塗り層となることは剥離の原因であり、この現象を「ドライアウト」と呼ぶ。

問題 2 4 現代しっくい施工要領（下地）について、最も不適当なものはどれか。

1. 木製壁下地に石膏ボードを留め付けるビスピッチは、ボード周辺部で 100mm、一般部で 150mm を推奨している。
2. LGS 壁下地に張り付ける石膏ボードは、床から天井まで 1 枚で張れるサイズを使用するか、ジョイントをずらした 2 枚張りとする。
3. ジョイント部で石膏の露出部がある場合には、エチレン酢酸ビニル系の合成樹脂エマルジョンプライマーの 3～4 倍液を塗布し、吸水調整を行う。
4. 石膏ボードのベベルエッジは、突き付け張りとし表面をジョイントテープで補強することで面剛性が高まり、塗り壁の下地に最も適している。

問題 2 5 左官工事に関する記述について、最も不適当なものはどれか。

1. 左官の大きな特徴に、複雑な形状でも自由に形成することができる「可塑性」と、シームレスな仕上げが可能な「展伸性」という性質をもつ。
2. 左官工事の品質管理項目として、必要な強度と適当な表面硬度を有することが要求されている。
3. 付け送りとは、仕上げ塗りの前工程で行い、上塗りが均等な塗り厚で精度の良い仕上がりとなるための重要な工程となる。
4. コンクリート打設の際に、先に打込んだコンクリートと後から打設した層との間が一体化しなかった継ぎ目をコールドジョイントという。